

自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 日本自動車会議所
Automobile Business & Culture Association of Japan

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館

電話：03 (3578) 3880

FAX：03 (3578) 3883

URL

https://www.aba-j.or.jp



第5回 CSP大賞2025

CSP大賞 特別号
2026 No.965

発行人 島崎 豊

編集人 田村 里志

第5回(2025年度)クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞 式典

主催 日本自動車会議所 日刊自動車新聞社

クルマをニッポンの文化に

表彰式を開催

第5回(2025年度)クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞表彰式

主催 日本自動車会議所 日刊自動車新聞社



大賞はアイシンの「チョインソ」



表彰式の様子

日本自動車会議所(豊田章男会長)は2025年3月16日、第5回「クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞」(CSP大賞)の表彰式を開催しました。受賞者をはじめ自動車業界の関係者など100人を超える人が出席し、賞状の授与や記念撮影が行われました。今回は前回は10件上回る、56件の応募が全国からあり、38件の「グッドパートナーシップ事業」を選定しました。その中から、「大賞」・大賞に次ぐ「選考委員特別賞」2件、部門賞として「モビリティ・ソリューション賞」2件、「地域・コミュニティ活性化賞」3件、「環境貢献賞」3件、「くるまファン拡大賞」3件を決めています。豊田章男会長は主催者を代表し、「第5回を迎えるに当たり、『文化』という言葉を加えました。これは、私自身が掲げたい『クルマをニッポンの文化に』という思いを、より強く社会に発信したいという願いによるものです。応募された取り組みは、いずれもクルマをより良くしたい、社会の役に立ちたいという強い思いの下、自ら動き、仲間を巻き込み、継続してきた成果だと思えます。皆さまの活動が、未来のモビリティ社会につながる大きな力となっていくことを心から確信しています」と述べました。

第5回クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞

大賞はアイシンの「乗り合い交通事業」
大賞には、アイシンの「乗り合い送迎サービス『チョインソ』」が輝きました。2018年に愛知県豊明市で運行を開始し、現在、全国で90を超えるエリアにまで拡大しています。移動サービス事業推進部の鈴木歩部長は、「『チョインソ』は、トヨタやダイハツの販売店など、地元の企業が運営の担い手となり、ごまごまで続けることができました」と、パートナー企業に感謝を伝えました。「地域の交通課題は人手不足や減便と共通点もありますが、ニーズは一つひとつ異なります。単なるシステムを提供するだけではなく、自治体や住民の方々、地元企業と一緒につくり上げる交通にこだわってきました」と、活動の継続とさらなる発展へ決意を述べました。



第5回(2025年度)クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞表彰式

主催 日本自動車会議所 日刊自動車新聞社

グッドパートナーシップ事業の受賞各社

特別賞は二輪車まちおこしとトヨタ新事業
選考委員特別賞には、ウエルカムライダースおがの(事務局 西秩交商工内)の「オートバイによるまちおこし」と、トヨタ自動車の「D

モビリティ・ソリューション賞
私たちが自動車部品メーカーとして、技術を使って人のために何かしたいという思いでやってきました。事業として2021年から着手しました。これからは現場のみなさまと一緒に力を合わせて、自動車部品メーカーの発展を考えながら研究を続けてまいります。 (アイン・HIS製品本部の山下隆二本部長)

環境貢献賞
当社は18年前から日本全国に植樹をしています。全国の約4万社のお客様と一緒に協働を進めていくことにしたのがグロリープロジェクトです。植樹・植林だけでなく、

くるまファン拡大賞
この活動は弊社と地元市の取り組みと一緒に行っており、年間通じての活動を30年ほど続けています。地元のことやまちに夢を持ってもらう、クルマ作りに興味を持ってもらうこと、この活動を通じて、われわれも継続していろいろな活動をしています。われわれも継続していろいろな活動をしています。 (豊田自動車機械経営委員の柘岡一成自動車事業部長)

部門賞を受賞した各社
交流会では選考委員や受賞企業同士が懇談する姿が見られました

大賞はアイシンの「乗り合い交通事業」
大賞には、アイシンの「乗り合い送迎サービス『チョインソ』」が輝きました。2018年に愛知県豊明市で運行を開始し、現在、全国で90を超えるエリアにまで拡大しています。移動サービス事業推進部の鈴木歩部長は、「『チョインソ』は、トヨタやダイハツの販売店など、地元の企業が運営の担い手となり、ごまごまで続けることができました」と、パートナー企業に感謝を伝えました。「地域の交通課題は人手不足や減便と共通点もありますが、ニーズは一つひとつ異なります。単なるシステムを提供するだけではなく、自治体や住民の方々、地元企業と一緒につくり上げる交通にこだわってきました」と、活動の継続とさらなる発展へ決意を述べました。

くるまファン拡大賞
この活動は弊社と地元市の取り組みと一緒に行っており、年間通じての活動を30年ほど続けています。地元のことやまちに夢を持ってもらう、クルマ作りに興味を持ってもらうこと、この活動を通じて、われわれも継続していろいろな活動をしています。われわれも継続していろいろな活動をしています。 (豊田自動車機械経営委員の柘岡一成自動車事業部長)

水辺による死亡事故をいかに無くすかという取り組みをしている方々を応援したいという思い、地域の皆さまと一緒にやってきました。また、モータースポーツをクルマのキーワードとしてこの一年進んできました。神奈川県スバルにかかわるすべてを豊かにしたいという思いを一つに取り組みたいと思います。 (神奈川県スバル管理本部総務・人事課の和栗正典主査)

RIVE RECORDER 119」が受賞しました。ウエルカムライダースの強矢立家代表は、「埼玉県小栗野町山里的町です。当初はパッシングもありましたが、20年にわたり地道な活動を続け、ようやくライダーウエルカムな町に変わりました」と振り返りました。続けて、「今回の受賞は、私たちの取り組みが社会に認められた証。大きな自信になりました」と、喜びを語りました。

トヨタが受賞したのは、19番通報を受けた消防指令センターのオペレーターが、火災や交通事故があった現場付近にいた車のドライブレコーダー映像を確認できるシステムです。20年にトヨタの新事業としてスタートし、現在は30を超える交通事業者の協力を得て、映像を取得しています。新事業企画部の小池優仁主任は「現場の状況をタイ

ムリに消防に提供するのは、多くの車の連携が必要で、1分1秒を争う消防の方々のために、現場で助けを待っている方々のため、感じることができました。地域に寄り添う姿勢と、モビリティを通じた社会貢献のあり方を示す素晴らしい活動です」と講評しました。

この活動は弊社と地元市の取り組みと一緒に行っており、年間通じての活動を30年ほど続けています。地元のことやまちに夢を持ってもらう、クルマ作りに興味を持ってもらうこと、この活動を通じて、われわれも継続していろいろな活動をしています。われわれも継続していろいろな活動をしています。 (豊田自動車機械経営委員の柘岡一成自動車事業部長)



多様な取り組みの一助に

今回から「クルマ文化の向上」もテーマ

さまざまな貢献

活動に感謝

日本自動車会議所（豊田章男会長）は、第5回（2025年度）クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞（CSP大賞、共催）日刊自動車新聞社）の受賞者を決定しました。大賞は、アイシンの乗り合い送迎サービス「スーパーストーション」が受賞しました。地域の移動課題に応じたデマンド交通を展開し、高齢者支援と交通利便性向上に寄与したことが高く評価されました。大賞に次ぐ、選考委員特別賞はウエルカムライダーズおがの（埼玉県小鹿野町、共同応募＝小鹿野町）の「オートバイによるまちおこし」とトヨタ自動車の消防の課題解決プロジェクト「DRIVE RECORD ORDER19」を選定しました。

認知高まり活動に自信も

5回目となる今回は、昨年10月のエントリー開始から12月末までに、全国の部品メーカーや自動車販売店などから多数の応募がありました。その中から選考委員会が表彰にふさわしい取り組みとして「グッドパートナーシップ事業」38事業を選定しました。さらに38事業の中から、表彰の目的や日本自動車会議所のビジョンに合致する取り組みとして大賞と選考委員特別賞、各部門賞を決定しました。

業の中から、表彰の目的や日本自動車会議所のビジョンに合致する取り組みとして大賞と選考委員特別賞、各部門賞を決定しました。

①「クルマにかかわる文化の向上につながる取り組み」の2社、地域・コミュニティ活性化賞は、「環境貢献賞」「くろまファン拡大賞」を設けました。モビリティ・ソリューション賞は、アイシンと坪井自動車販売（岐阜県大垣市）の2社、地域・コミュニティ活性化賞は、愛三工業、アデル・カーズ（熊本県南区）、三井住友海上火災保険の3社が選ばれました。環境貢献賞は、プロドリフ、トヨタ紡織、東海理化の3社、くろまファン拡大賞は豊田自動織機、神奈川スバル（横浜市港北区）、Team MAR

「クルマにかかわる文化の向上」を追加しました。第4回まで、自動車メーカーや部品メーカー、自動車販売会社、自動車関連企業のほか、地方自治体や業界団体など83社・団体が受賞しました。これまでの受賞者からは「業界から評価されることは励みになる」「取り組みの認知が高まり、より幅広く活動できるようになった」「社員が自分の会社に自信を持てるようになった」などの喜びの声もあがっています。

この賞は、自動車業界で働く550万人の仲間、そして日々、クルマを愛し、支えてくださっている自動車ユーザーの皆さまへ、改めて「ありがとう」を伝えるため2021年に創設しました。そして今回、第5回を迎えるにあたり、「文化」という言葉を名称に加えました。これは、自身が掲げた「クルマをニッポンの文化に！」という思いを、より強く社会に発信したいという願いによるものです。

「クルマ」があると考えたら、ある人には「支える場」、ある人には「きたる場」、それぞれの「場」で行われる、一つひとつの改善と、一人ひとりの地道な努力が、必ず誰かの役に立ち、明日の社会を変えていくと思っております。今日受賞される皆さまの取り組みはその象徴です。皆さまの活動が業界の枠を超え、世代を超え、未来のモビリティ社会につながる大きな力になっていくことを、私は心から確信しています。この賞が、多くの人々に、挑戦の「場」、成長の「場」、いろいろな「場」を提供するものになれば、こんなに嬉しいことはありません。最後に、応募くださった皆さま、支えてくださった関係者の皆さまに、改めて感謝を申し上げます。

「もったいない社会を」「もったいない文化をつくる仲間としてこれからも挑戦を続けてまいります。本日は誠にありがとうございました。」

「クルマにかかわる文化の向上」を追加しました。第4回まで、自動車メーカーや部品メーカー、自動車販売会社、自動車関連企業のほか、地方自治体や業界団体など83社・団体が受賞しました。これまでの受賞者からは「業界から評価されることは励みになる」「取り組みの認知が高まり、より幅広く活動できるようになった」「社員が自分の会社に自信を持てるようになった」などの喜びの声もあがっています。

「クルマ」があると考えたら、ある人には「支える場」、ある人には「きたる場」、それぞれの「場」で行われる、一つひとつの改善と、一人ひとりの地道な努力が、必ず誰かの役に立ち、明日の社会を変えていくと思っております。今日受賞される皆さまの取り組みはその象徴です。皆さまの活動が業界の枠を超え、世代を超え、未来のモビリティ社会につながる大きな力になっていくことを、私は心から確信しています。この賞が、多くの人々に、挑戦の「場」、成長の「場」、いろいろな「場」を提供するものになれば、こんなに嬉しいことはありません。最後に、応募くださった皆さま、支えてくださった関係者の皆さまに、改めて感謝を申し上げます。

「もったいない社会を」「もったいない文化をつくる仲間としてこれからも挑戦を続けてまいります。本日は誠にありがとうございました。」

「クルマにかかわる文化の向上」を追加しました。第4回まで、自動車メーカーや部品メーカー、自動車販売会社、自動車関連企業のほか、地方自治体や業界団体など83社・団体が受賞しました。これまでの受賞者からは「業界から評価されることは励みになる」「取り組みの認知が高まり、より幅広く活動できるようになった」「社員が自分の会社に自信を持てるようになった」などの喜びの声もあがっています。

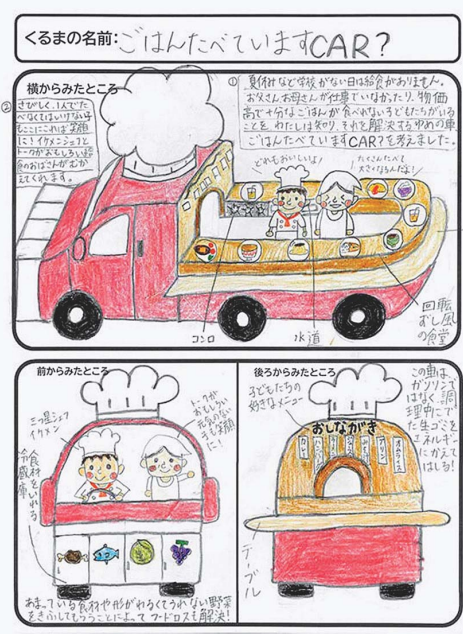
「クルマ」があると考えたら、ある人には「支える場」、ある人には「きたる場」、それぞれの「場」で行われる、一つひとつの改善と、一人ひとりの地道な努力が、必ず誰かの役に立ち、明日の社会を変えていくと思っております。今日受賞される皆さまの取り組みはその象徴です。皆さまの活動が業界の枠を超え、世代を超え、未来のモビリティ社会につながる大きな力になっていくことを、私は心から確信しています。この賞が、多くの人々に、挑戦の「場」、成長の「場」、いろいろな「場」を提供するものになれば、こんなに嬉しいことはありません。最後に、応募くださった皆さま、支えてくださった関係者の皆さまに、改めて感謝を申し上げます。

「もったいない社会を」「もったいない文化をつくる仲間としてこれからも挑戦を続けてまいります。本日は誠にありがとうございました。」

「クルマにかかわる文化の向上」を追加しました。第4回まで、自動車メーカーや部品メーカー、自動車販売会社、自動車関連企業のほか、地方自治体や業界団体など83社・団体が受賞しました。これまでの受賞者からは「業界から評価されることは励みになる」「取り組みの認知が高まり、より幅広く活動できるようになった」「社員が自分の会社に自信を持てるようになった」などの喜びの声もあがっています。

「クルマ」があると考えたら、ある人には「支える場」、ある人には「きたる場」、それぞれの「場」で行われる、一つひとつの改善と、一人ひとりの地道な努力が、必ず誰かの役に立ち、明日の社会を変えていくと思っております。今日受賞される皆さまの取り組みはその象徴です。皆さまの活動が業界の枠を超え、世代を超え、未来のモビリティ社会につながる大きな力になっていくことを、私は心から確信しています。この賞が、多くの人々に、挑戦の「場」、成長の「場」、いろいろな「場」を提供するものになれば、こんなに嬉しいことはありません。最後に、応募くださった皆さま、支えてくださった関係者の皆さまに、改めて感謝を申し上げます。

「もったいない社会を」「もったいない文化をつくる仲間としてこれからも挑戦を続けてまいります。本日は誠にありがとうございました。」



子どもの創造力を育みクルマファンづくりにつなげる



地域の移動課題解決へ



町ぐるみでライターの歓迎



植樹などで環境保全を推進

「クルマ」があると考えたら、ある人には「支える場」、ある人には「きたる場」、それぞれの「場」で行われる、一つひとつの改善と、一人ひとりの地道な努力が、必ず誰かの役に立ち、明日の社会を変えていくと思っております。今日受賞される皆さまの取り組みはその象徴です。皆さまの活動が業界の枠を超え、世代を超え、未来のモビリティ社会につながる大きな力になっていくことを、私は心から確信しています。この賞が、多くの人々に、挑戦の「場」、成長の「場」、いろいろな「場」を提供するものになれば、こんなに嬉しいことはありません。最後に、応募くださった皆さま、支えてくださった関係者の皆さまに、改めて感謝を申し上げます。

「クルマ」があると考えたら、ある人には「支える場」、ある人には「きたる場」、それぞれの「場」で行われる、一つひとつの改善と、一人ひとりの地道な努力が、必ず誰かの役に立ち、明日の社会を変えていくと思っております。今日受賞される皆さまの取り組みはその象徴です。皆さまの活動が業界の枠を超え、世代を超え、未来のモビリティ社会につながる大きな力になっていくことを、私は心から確信しています。この賞が、多くの人々に、挑戦の「場」、成長の「場」、いろいろな「場」を提供するものになれば、こんなに嬉しいことはありません。最後に、応募くださった皆さま、支えてくださった関係者の皆さまに、改めて感謝を申し上げます。

「もったいない社会を」「もったいない文化をつくる仲間としてこれからも挑戦を続けてまいります。本日は誠にありがとうございました。」

敬称略

選考委員



蓮花 一己
帝塚山大学名誉教授
日本自動車連盟副会長

選考委員



若林 陽介
交通エコロジー・モビリティ財団理事長



関根 千佳
ユナイテッド会長
兼シニアフェロー



森 撰
オルタナ代表取締役社長
「オルタナ」創刊編集長



田口 亜希
日本財団
パラスポーツサポートセンター
競技団体支援部ディレクター



宮木 由貴子
第一生命経済研究所
常務取締役



島崎 豊
日本自動車会議所専務理事



花井 真紀子
日刊自動車新聞社代表取締役社長

モビリティ・ソリューション賞

福祉から環境まで 幅広く地域支える



坪井自動車販売(坪井英倅社長、岐阜県大垣市)は、2016年12月以降、福祉から環境対応まで幅広い分野で新たな取り組みに挑戦し続け、顧客、地域社会、環境、社内の4つの側面で好循環を生み出している。具体的には、福祉車両改造による顧客の「移動の自由の確保」に向けた取り組み

坪井自動車販売

坪井自動車販売(坪井英倅社長、岐阜県大垣市)は、2016年12月以降、福祉から環境対応まで幅広い分野で新たな取り組みに挑戦し続け、顧客、地域社会、環境、社内の4つの側面で好循環を生み出している。具体的には、福祉車両改造による顧客の「移動の自由の確保」に向けた取り組み

移動の自由をあきらめないクルマを



「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

モビリティ・ソリューション賞

道路維持管理の支援ツール「みちログ」



アイシン

アイシンはカーナビ開発で培った位置情報活用技術やAI解析技術を応用し、効率的な路面異常検知と補修状況管理を実現するDXクラウドサービス「みちログ」を開発した。日本の社会インフラは高度経済成長期に整備されたものが多く、国土の水道管破損や、老朽道路陥没事故など、老朽

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

位置情報やAI活用で路面異常を検知



「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

地域・コミュニティ活性化賞

環境と文化の両立を目指して



アデル・カーズ

アデル・カーズ(池永成正社長、熊本県南区)は、「人を大切に、多様性と個性を受け入れる文化」を育んでいる。継続中の環境保全活動に加え、これまで受け継がれてきた車の役割や価値も大切に、環境と文化の両立を目指す。その必要不可欠な要素である「環境保全」の一環として、環境保全、カルチャーとヒストリーの継承、地域社会との連携の3つの切り口を

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

多様な活動通じ「善いことを続ける」



「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

地域・コミュニティ活性化賞

自転車から広がる地域の未来



愛三工業

愛三工業は交通安全、サイクリングイベントなどを展開する「自転車学校」を2013年に愛知県大府市とともに開始した。さらにサイクリングを楽しくだけでなく、自転車通学時の交通安全教育の要素を取り入れるため、

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

モビリティ文化振興支援・地域課題解決貢献活動

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

環境貢献賞

次代の子どもたちに地域の環境つなぐ



ブロードリーフ

ブロードリーフは、2008年から企業参画型環境保全活動「Grow Leaf(グロリーフ)プロジェクト」を行っている。このプロジェクトは、子どもたちやその先の世代の子どもたちに豊かな地域環境をつなぎ、多様な持続可能な循環型社会の実現を目的として設立した。リソース不足

「受賞コメント」この度は「環境貢献賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

独自の貢献活動を17年間展開



「受賞コメント」この度は「環境貢献賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

「受賞コメント」この度は「環境貢献賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

地域・コミュニティ活性化賞

災害時の避難所環境改善へ



三井住友海上火災保険

三井住友海上火災保険は、2024年3月から日本キッチンカー経営者会議と連携し、避難所環境の改善に向けた取り組みを推進している。適温食や嗜好食を機動的に被災地に提供できる

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

日本キッチンカー経営者会議と連携

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

「受賞コメント」この度は「地域・コミュニティ活性化賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年間にわたり継続してまいりましては、大変光栄に感じています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

環境貢献賞

地域の歴史と文化を未来に引き継ぐ

トヨタ紡織

共同実施：加子母森林組合ほか



トヨタ紡織は、自社工場がある岐阜県で「企業との協働による森林づくり」事業の第1号として、中津川市加子母での協定を2008年4月に締結し、森づくりを本格的に開始した。

「木曾ヒノキ」の名産地の加子母は、伊勢神宮式年遷宮材や名古屋城本丸御殿の復元材としても使われる良質な木材を育てる。森づくりは、1種を中心に植栽し、累計植樹本数は4790本を数える。

活動は「森林整備」「環境教育」「交流・体験」から成り立つ。年間計画をもとに、間伐、下草刈り、遊歩道整備を継続。間伐材からベンチを製作、クリン活動や家族で楽しめる火起こし、釜炊飯など森と暮らす

地域だ。同社は企業が地域の歴史と文化を尊重し未来に継いでいくことを重視して同地域での森づくりに着手した。取り組みは社員参加型モデルとして位置付け、休日に社員と家族らが「自分以外の誰かのために」という思いで活動を推進してきた。活動開始直後は、広葉樹11種、針葉樹1種を中心に植栽し、累計植樹本数は4790本を数える。

活動は「森林整備」「環境教育」「交流・体験」から成り立つ。年間計画をもとに、間伐、下草刈り、遊歩道整備を継続。間伐材からベンチを製作、クリン活動や家族で楽しめる火起こし、釜炊飯など森と暮らす

社員参加型で「森林づくり」活動



を結ぶ学びの場も提供している。さらに、森を中心とした人の輪を広げる活動や自然の循環と資源の有効活用を体験できる場など、森づくりが保全活動としてだけでなく、スポーツ、教育、文化へと広がる取り組みとなっている。

「受賞者コメント」この度は、環境貢献賞に選出いただき、誠にありがとうございます。数社が社会貢献活動の一つである「加子母の森づくり」活動を通じて、地域や自然と協働し地域活性化に取り組んでいきたいと思います。未来の子もまた緑の宝を享受できるように、地域課題の解決に向け、皆手と肩を並べ、成長し続けていきたいと思います。

環境貢献賞

端材活用した新ブランド立ち上げ

東海理化



東海理化は、2022年に端材を活用したアップサイクルブランド「THINK SCRAP」を立ち上げた。

同ブランドは、自動車用シートベルトの端材を活用したハンドバッグやポーチなどの製品開発を行っている。ただごみを減らすことを目的としたものでなく、素材を紹介

て経済を循環させ、クルマへの愛着を育むライフスタイル文化の創造を目指している。シートベルトが持つ強度やしなやかさ、色合いなど素材を最大限に生かした製造方法で、「処理すべき廃棄物」から「価値を生み出す資源」へ意識が変化した。現在では廃棄予定だったシートベルト端材の約13%を製品として生かしている。

同ブランドの製品は自社ECCサイトやポップアップショップなどで販売しているほか、博物館やクルマの展示会、イベントでも販売している。また、学校と連

廃棄予定のシートベルト端材13%を生かす



携し、学生が企画・販売、情報発信にかかわる機会を創出。サステイナブルなもののつくりを体験的に伝える場となっている。

廃棄物削減、文化発信、地域経済、教育連携を同時に実現する、持続可能なモデルとして効果を発揮している。

「受賞者コメント」この度は、SDG大賞 環境貢献賞をいただき、光栄に思います。東海理化のアップサイクルブランド「THINK SCRAP」は、世界に誇る技術と安全を支えてきた自動車部品の価値を捨てることなく取り組み、シートベルト端材を地域の縫製工場や協力メーカーの指先で毎日使った道具として製品化し、販売を通じてクルマ文化の魅力を多くの方へ届けてきました。今後も本活動を軸に、循環する社会の構築を目指します。

くるまファン拡大賞

「夢のくるまコンテスト」に協力

豊田自動織機



豊田自動織機は1994年以降、同社長草工場が立地する愛知県大府市の働きかけにより、同市が主催する「夢のくるまコンテスト」に30年以上にわたり継続的に協力している。

このコンテストは、市内の小学校9校の5、6年生を対象に、夏休みの自由課題として子どもたちが描いた「夢のくるま」の中から優秀作品を選出して表彰するもので、応募は毎年千件を超える。同社では、この優秀作品を基に自社のカーデザイナーやカーモデラーがモデルカーやレンタリング画を制作し、入賞した子どもにこれをプレゼントしてきた。2011年からは、コンテストの事前学習として「未来のくるま学習」を開始した。カーモデラーが講師となり、市内の小学校5年生に自動車の魅力やデザインの面白さを伝えている。

活動に参加した同社デザイナーも地域に直接貢献し感謝されることで、本来の

6年生を対象に、夏休みの自由課題として子どもたちが描いた「夢のくるま」の中から優秀作品を選出して表彰するもので、応募は毎年千件を超える。同社では、この優秀作品を基に自社のカーデザイナーやカーモデラーがモデルカーやレンタリング画を制作し、入賞した子どもにこれをプレゼントしてきた。2011年からは、コンテストの事前学習として「未来のくるま学習」を開始した。カーモデラーが講師となり、市内の小学校5年生に自動車の魅力やデザインの面白さを伝えている。

活動に参加した同社デザイナーも地域に直接貢献し感謝されることで、本来の

地域とつながり次世代の創造力育む



これらの取り組みは、自動車産業が地域の主要産業の一つとなっている同市において、地域と自動車産業をつなぎ、次世代の創造力を育む活動となっている。

これからの取り組みは、自動車産業が地域の主要産業の一つとなっている同市において、地域と自動車産業をつなぎ、次世代の創造力を育む活動となっている。

「受賞者コメント」この度は「くるまファン拡大賞」を受賞させていただきました。地域とつながり育む、次世代の創造力を育むという目的に約30年にわたる実践してきた本活動は、地域行政や学校をはじめ、多くの協力の賜で継続することができました。本年からは、さらに小学生向けの工場見学も立ち上げ、今回受賞の活動と連携させることで、次世代を担う子どもたちに夢のつくりの魅力を伝えるよう努めてまいります。

くるまファン拡大賞

交通社会の「安全・安心」意識を拡大

神奈川スバル



神奈川スバル（中村重人社長、横浜市港北区）は、「愛される神奈川スバルになる」・SUBARUのクルマづくりの思想とファンづくりをテーマに、人の命を大切にすることを応援するとともに、交通社会の「安全・安心」の意識を広げる活動に取り組む。

安全・安心の意識を拡大する取り組みの一環として、スバルグループの次世代育成にも注力している。2005年に開催された「ジャパンモビリティショー」に内定者を招待した。次世代モビリティや自動車業界の未来を体感してもらおうと、将来を担う人材とファンづくりにつなげていきたい考えだ。これらの活動を

「一つのいのちプロジェクト」を通じて、全店舗にライフェーパーカーを展示。また、神奈川県ライフェービング協会の活動紹介などを行っている。モータースポーツを通じた取り組みも行う。走る楽しさやスバルの車づくりへの熱意を伝えるため、GTレース観戦に自動車整備学校の生徒を招いた。

次世代育成にも注力している。2005年に開催された「ジャパンモビリティショー」に内定者を招待した。次世代モビリティや自動車業界の未来を体感してもらおうと、将来を担う人材とファンづくりにつなげていきたい考えだ。これらの活動を

多様な活動通じ価値を体感し思い共感



通じて、価値を体感し、思いを共感する機会を重ねたことで、社員エンゲージメントと顧客ロイヤルティが向上した。同社は、今後も地域に愛される存在として、ファンづくりに注力していく。

「受賞者コメント」この度は「くるまファン拡大賞」という栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。本取り組みは、SUBARUチームが大切にしている安心と楽しさ、そして神奈川スバルの豊かなカラーの提供という価値観に多くのお客様が共感の声を届けてくださる機会を通じて共に成長してきた歩みか評価されたことに嬉しく思います。今後も神奈川からくるまファンの広がりを着実に未来へつなげてまいります。

くるまファン拡大賞

女性ライダー特化の交通安全講習

チームマリ



女性専用ライディングスクールを運営するTeam MARI（チームマリ、井形とも代表取締役、東京都港区）は、海外展開の一環として、2025年9月にシンガポールで安全運転講習を初開催した。1988年の設立以来、日本国内で600回以上の講習を実施し、延べ1万7千人超の女性に二輪車の安全運転技術を指導してきた実績を持つ。

講習は政府系教育所を会場に2日間開催し、18歳から50代まで計39人が参加した。宗教・文化への配慮や夜間開催への対応、安全管理体制の徹底など、現地環境に適応した運営が特徴だ。受講者の技術向上と安全意識の醸成に加え、女性ライダー同士のコミュニティ形成にもつながっており、現地教育所は女性向け講習の継続実施を決定

国内で培ったノウハウを基盤に「女性が女性に教える」独自メソッドを海外へ展開する。姿勢・視線・操作の連携による無理のない車体コントロールや、低速域の安定操作、危険予知能力の向上を柱に据え、免許取得直後の事故防止を重視した指導を行っている。

講習は政府系教育所を会場に2日間開催し、18歳から50代まで計39人が参加した。宗教・文化への配慮や夜間開催への対応、安全管理体制の徹底など、現地環境に適応した運営が特徴だ。受講者の技術向上と安全意識の醸成に加え、女性ライダー同士のコミュニティ形成にもつながっており、現地教育所は女性向け講習の継続実施を決定

「女性が女性に」メソッドを海外にも



この取り組みは、日本の安全運転教育の知見を国際的に共有し、女性の移動の自由と安全の両立を後押しする取り組みとして評価されている。今後もアジアを中心に活動を拡大し、持続可能な交通社会の実現に貢献していく考えだ。

「受賞者コメント」37年渡る女性ライディングに特化した二輪の安全運転講習活動が海外での開催に繋がって、予想以上の相乗効果を得られ、今回受賞に至った事を光栄に思います。一輪は、安全に対してライターの運転技術の上昇も高いモチベーションです。アジア諸国でも女性ライダーが増える中、日本への憧れや信頼を肌感しました。私達の活動が「クルマを日本の文化にする取組みの一翼を担えれば幸いです。」

環境貢献賞

「ありがとう」と感謝を伝えたい



自動車業界で働く550万人と自動車ユーザーによるさまざまな貢献に「ありがとう」と感謝を伝えたいとの思いで、2021年にCSP大賞が創設された。以来、一般公募を中心に多

冥利につきます。一方で、公募方式を採用する表彰制度では、まずは応募したくないという取り組みの内容が世に出ないという仕組み上の限界もある。もっと多くの取り組みを紹介し、感謝を伝えたいとの思いが年々募っている。応募されなかったものの、感謝を伝えたい地道で継続的な取り組みにいかにか光を当てて、主催者として試行錯誤を続けている。

誰しも、日頃のニュースや情報交換などを通じて、さまざまな素晴らしい取り組みを耳にしているはず。印象に残った事例に限っても枚挙にいとまがない。

例えば、国際自動車（東京都港区）が23年以降継続している路上寝込み者などの保護による街の安全・人命貢献活動。静岡県藤枝市が高齢者や交通弱者を

対象に展開する移動支援プロジェクト。自動車メーカーの福祉車両ラインアップの開発と社会普及に尽力した技術者の取り組み。つばめタクシー（熊本県人吉市）の「親孝行タクシー」事業。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における輸送バス台数確保に関する取り組み。ヤマザキパンによる、災害時におけるパンの無償配布による地域支援活動。羽田空港での滑走路衝突事故に伴う茨城空港へのダイヤパートに関する関東鉄道バスの対応事例など。

これらの幅広い事例は、応募されなかったものの、実はまさにCSP大賞として是非感謝を伝えたい取り組みでもある。社会的意義を優先し、自身のビジネスの犠牲を負った上で自発的に公益に資する行動や、社会に資する製品やサービスを世に送り出すことで人々の生活の質の向上に寄与した個人の取り組みなどは、積極的に応募される場合が少ないのが現状だ。他薦も含め何となく光を当てて感謝の意を伝えたいところだ。

グッドパートナーシップ事業(大賞、選考委員特別賞、部門賞受賞事業を除く、順不同)

■東海理化(愛知県大口町)

新開発ベイト剤と官民協働で防除効率を改善し自治体の環境対応力を高めた活動

■奈良トヨタ(奈良県奈良市)

レストアと博物館運営で技術継承と人材育成を促進し自動車文化発信に寄与

■東海理化(愛知県大口町)

AIで乗客行動を検知し警告する安全システムを導入しバス車内事故削減に寄与

■ネットトヨタニューリー北大阪(大阪府豊中市)

交通安全・防災フェスタと店舗開放で地域交流を生み街の安心と活力向上に貢献

■ホンダカーズ岐阜(岐阜県岐南町)

幼児向け教材を使い信号や横断方法を指導し子どもの交通安全理解を深める活動

■レモリフ(香川県高松市)

モビリティ循環とDX・人材支援を組み合わせ地域企業の課題解決と活性化に貢献

■ホンダカーズ長野中央(長野県長野市)

絶滅危惧種の保全活動を地域と協働し環境保全と地域参加の輪を拡大

■明星金属工業(大阪府大東市)

金型製作紹介や工場見学で技術理解と職業教育を促しものづくりの魅力を発信

■トヨタ博物館(愛知県長久手市)

企画展やヘリテージ車体験を通じ日本車文化を広く発信し理解促進に貢献

■Hyundai Mobility Japan(横浜市 西区)

EV寄贈や電動バス導入で地域脱炭素と防災力強化を支え次世代交通を推進

■トヨタモビリティ東京(東京都港区)

4拠点の特色ある施設で地域イベントや交流を創出し新しい地域貢献モデルを展開

■島根トヨペット(島根県松江市)

はたらく車展示と仕事体験イベントで子どもに職業理解を広げ地域の活力向上に寄与

■トヨタカローラ香川(香川県高松市)

車中泊旅や災害給電の体験企画で地域観光振興と防災意識向上に貢献

■日野自動車(東京都日野市)

GPS連携で荷待ち時間を自動把握し業務効率化と物流課題解決に寄与

■学校法人柳心学園(鳥取県米子市)

安全講習や奨学金設立で地域の交通教育と未来人材育成に広く貢献

■トヨタ・コニック・プロ(東京都千代田区)

買物支援とデータ活用で地域の暮らしを改善し健幸増進と共創モデルを構築

■愛媛日産自動車(愛媛県松山市)

福祉車両・EV展示と相談体制を整え地域の移動課題解決と防災支援に寄与

■OKISHU(東京都中野区)

交通安全を楽しく学べる活動で女性や子どもへの意識向上と地域連携を促進

■KPMGモビリティ研究所(東京

都千代田区)

多様な参加者と運行タスクを検討し実証運行で自動運転社会実装を推進

■KCJ GROUP(東京都中央区)

本格的な自動車職業体験で次世代へ技術理解を深め未来の担い手育成に寄与

■日本自動車連盟(東京都港区)

SNS投稿企画でオフィシャルへの感謝を拡散し認知向上と交流促進に貢献

■GNホールディングス(群馬県前橋市)

草津町と異業種3社とで連携しEV導入や防災・資源循環を調査し持続可能な町づくりを推進

■メーカーズ(福岡市西区)

子ども食堂とカレー購入連動企画を開始し地域交流促進とスタッフ意識向上に寄与

■ウエイズインポートカーズ(横浜市西区)

障がい者アート展示と寄付連動企画を実施し地域共創と社員意識向上に寄与

クルマ・文化・社会・パートナーシップ(CSP)大賞とは

CSP大賞のねらい

- ①自動車業界で働く人々や、自動車ユーザーを含めた自動車にかかわる全ての方々が、クルマにかかわる文化の向上をはじめ社会や自動車業界に果たしている貢献に対して、「ありがとう」と感謝の意を伝える。
- ②表彰を通じて、それぞれの貢献の取り組みにあらためて注目を集め、認知を広げることで、同じような取り組みが拡大していく一助とする。

応募対象

皆様の以下のような活動への取り組みをもっと世の中に知っていただくきっかけとしてご応募をご検討ください。

- ①クルマにかかわる文化の向上につながる取り組み
- ②クルマのファン作りにつながる取り組み
- ③あらたなアイデアや課題解決を通じたモビリティ社会の発展につながる取り組み(含:教育・健康・福祉)
- ④地域や自治体等と協働・連携し地域活性化に向けた取り組み(含:災害・緊急時)
- ⑤自動車業界で働く人々や自動車ユーザーで特にその現場での活躍や貢献により表彰に値する取り組み
※「クルマ」にはバイク等も含まれます

受賞企業のほか、業界関係者も訪れた



表彰式には100人以上が参加した



豊田会長と握手を交わす受賞者



部門賞(14社)が選出された



交流会で取り組みへの思いを語る



交流会では情報交換が盛んに行われた



一般社団法人日本自動車会議所

株式会社日刊自動車新聞社

HP内CSP特設ページ →

<https://www.aba-j.or.jp/activity/csp/>



電子版 → <https://www.netdenjd.com/>

